

《実践報告》

「和語・漢語・外来語」の実践

～ 言葉の歴史を考える単元づくり ～

今野 優香

1. 問題の所在

本実践は、2016 年 11 月から 12 月にかけて横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校第 3 学年を対象に行ったものである。本稿は「和語・漢語・外来語」の学習と日本の文化交流の歴史を結びつける単元づくりを実践した。稿者は日本語学の語彙を研究しており、こうした教育の場にある語種の学習を日本語学の視点から実践してみようと試みた。

「和語・漢語・外来語」は小学校で 1 度扱われ、中学校第 3 学年で再び学習する。しかし「和語・漢語・外来語」とは何か、という根本的な定義について、学習の中で混乱することがあるのではないだろうか。特にここで問題になるのは、漢語と外来語の定義が不明瞭であることだ。

実践校の使用している光村図書出版の第 3 学年の教科書には、漢語は「漢字の音読みが使われる語」であり、「平仮名で書かれていても、音読みする語であれば漢語」と記されている。外来語は「漢語以外で、外国語から日本語に取り入れられた語」であり、「多くは、明治期以降に欧米から新しい事物と共に取り入れられた語」と記されている。しかし、漢語の形をした外来語（「珈琲」「檸檬」など）も存在する。

こうした語種を理解するには、日本と外国との文化交流の歴史とのつながりが極めて重要である。例えば、なぜ「米（こめ）」は和語なのかを考えたい。稲作は大陸から日本に伝わったことは誰もが知っているだろう。外国から取り入れたものであれば、それを表す語も外来語の可能性が高い。だが「米（こめ）」が訓読みで和語となっているのは、漢字が伝わるよりも先に「米（こめ）」が日本に伝わったことが理由にある。こうした音読み・訓読みだけで判断できない語は決して少なくないのだ。このことに考え至る時、歴史とのつながりが語種を学習する上でいかに必要かがわかる。

そこで本実践では、ある語がいつ日本に入ったのか、どのように日本語に取り入れられたのか、といった語の由来についても学習者に興味をもたせる単元づくりを行った。

2. 授業実践の概要

(1) 概要

和語・漢語・外来語・混種語の基礎を学んだ後、言葉と歴史の結びつきを考えるため、身近な語を調べる活動を行い、発表する。

(2) 単元名

言葉 1 「和語・漢語・外来語」（『国語 3』甲斐睦郎ほか、光村図書出版）

(3) 実施日

第 1 回：2016 年 11 月 21 日（火）

第 2 回：2016 年 12 月 8 日（木）

第 3 回：2016 年 12 月 12 日（月）

※合計 50 分 3 コマ実施

(4) 対象

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 3 年 A 組、B 組、C 組の 3 クラスで行った。

学習者は日頃から授業中の問いかけに対する発言も多く、言語活動には集中して取り組み、自ら学ぶ意欲がある。好奇心が旺盛で、興味を持ったことに対しては進んで取り組む。

(5) 単元目標

○日常生活の中の会話や文章などに使用される言葉に関心を持ち、豊かな言語感覚を磨こうとする態度を養う。

【関心・意欲・態度】

○日常生活における会話や文章などについて、和語・漢語・外来語がどのように使用されているのかを理解する。

【伝国 (1) イ (イ)】

(6) 授業展開

活動①基礎知識を理解する (1 時間目前半)

漢字は中国からやってきたこと、音読みと訓読みがあることを確認し、和語・漢語・外来語・混種語の区別を理解する。

活動②語種を判定してみる (1 時間目後半)

例文を使って、和語・漢語・外来語・混種語を念頭に、何種類の語が使われているか考える。活動は 4 人グループで行った。

活動③「気になる言葉」を調べる (2 時間目)

日常生活の中で「気になる言葉」を 1 つ持ち寄り、国語辞典・漢和辞典・図書室の本を用いて語種・意味や由来・関連する情報を調べる。

活動④発表と共有 (3 時間目)

グループ内で発表し合った後、代表者 1 人が全体発表を行う。

3. 学習活動の流れ

(1) 基礎知識を理解する (1 時間目前半)

まず、漢字が中国から伝わった文字であること、音読みと訓読みがあり、音読みが中国語の音を日本語の近い音にしたものであること、訓読みが日本語での意味(翻訳語)を読みにしたものであることなどを全体で確認した。学習者は日頃から授業に熱心に取り組み、発言も多く、すでに持っている基礎知識を確認する形で行った。

次に、教科書にある和語・漢語・外来語・混種語の各説明部分を授業者が読む間、学習者は目で追いながら重要と思うところに傍線を引いた。その後、各語種の特徴を一問一答形式で質問しながら、線を引いた部分の確認をした。学習者は先にやった音読み・訓読みの知識もつながら、それぞれの語種の特徴を確認できた。

(2) 語種を判定してみる (1 時間目後半)

語種の基本となる考え方がわかったところで、例文の中に和語・漢語・外来語・混種語の何種類の語が使用されているかを 4 人グループになって考えた。考える過程で、気になった

語や意見が分かれた語があった場合は、あとから全体で確認するためにワークシート A (資料 3) にメモをするよう指示した。語種の判定のために 1 人 1 冊、国語辞典と漢和辞典を使用した。

使用した例文は教科書内の他の単元(「新聞の社説を比較して読もう」)の社説(資料 1)の枠線内である。

資料 1 「和語・漢語・外来語」例文

国際的に和食は注目を浴びている。日本食レストランは各国で人気だし、欧米の料理人には「だし」を使ったり、ゴボウやカブ、ユズなどの食材を用いたりする動きがある。

こうした一方で、和食の未来を支える足元は危うい。

過程でもアジアや欧米の料理が、手軽に食べられるようになった半面、和食に親しむ機会は減った。伝統野菜など地域独自の食材や昔ながらの料理法は、大量生産が進む中で途絶えかけているものもある。
(教科書 P.124)

学習者は漢和辞典を引く機会が少ないため、その扱いに困る姿が多く見られ、簡単に説明を加えた。その後は、調べる語を分担しながら漢和辞典を引いたり、相談し合ったりしながら語種を判定した。迷ってしまい決めかねているグループにはなぜ迷っているのか話を聞き、その語をメモしておくよう指示した。また、辞書で調べると、考えていた語種と違った場合はグループで共有し、その場でメモをしておくことを指示した。どの学習者も率先して活動に取り組んでいた。

グループで考えがまとまったところで、何種類の語が使用されているか、どのような語で迷ったか、の 2 点を全体で共有した。語種は和語・漢語・外来語・混種語の 4 種類とするグループと、和語・漢語・外来語の 3 種類とするグループがどのクラスにも見られた。正解の発表は保留し、気になった語や意見が分かれた語を挙げさせた。

挙げられた語はどのクラスも「日本食レスト

ラン」「カブ」などに集中していた。ここで授業者は「途絶え」についても問いかけた。

「日本食レストラン」については、1語として漢語＋外来語の混種語にするか、「日本食」「レストラン」と語を分けて漢語と外来語とするか、という疑問だった。これに答えを出せたグループは、教科書にある混種語の例（「レポート用紙」「インスタント食品」が外来語＋漢語）を持ち出し、類似しているから混種語であるとした。これが正しいことを伝えたが、学習者は語を区切るときの考え方が難しかったようで、これをすべての学習者が納得できるように解説することがこの場ではできなかった。

「カブ」については、グループで話し合っている際に「カブ」を辞書で調べ、和語であると気づいたことでメモし、発表したものである。例文で前後に出てきた「ゴボウ」「ユズ」と共にカタカナで並立して書かれているため、辞書で引くことなく漢語としているグループも多かった。植物の名前はカタカナで記す場合もあるが、スーパーなどでは漢字で記される場合もある。学習者に漢字を思い出させながら授業者が板書をし、その場で「ゴボウ」「カブ」「ユズ」の音読み・訓読みをそれぞれ確認して、語種を確認した。「カブ」は日本に古くからあった植物であるが、「ゴボウ」と「ユズ」は中国から渡ってきた植物であることを学習者と確認した。

「途絶え」は学習者から発見があった語としては出なかったが、授業者から語種は何になると思うか、疑問を投げかけた。学習者は反射的に和語と答える意見と、漢和辞典を引いて混種語とする意見に分かれた。実際は「途絶え」は和語であるのだが、「途（ト）」は音読みである。これは「跡」と「絶え」という2つの和語が長い歴史の中で短く繋がり「途絶え（とだえ）」の1語になったものだ。「途（ト）」は音読みであるが、由来を考えると和語2語が1語になっており、和語とわかる。学習者は漢字の読みだけでは判断できない語に初めて触れたことになる。

迷った語と発見があった語の解説が共有できたところで、例文である社説の一部には和語

・漢語・外来語・混種語のうち何種類が使用されていたかを確認した。ここでの正解は4種類すべてが使用されているということだった。

学習内容はここで終了し、このあと本時の振り返りをワークシートA(資料3)に書かせた。その後次回までの課題として、生活の中で「気になる言葉」を2語見つけて用意してくるものの指示を出した。第1回と第2回の授業は2週間以上期間があるため、その間にどんな場面でも良いので「気になる言葉」を探してくることを指導した。

(3) 「気になる言葉」を調べる(2時間目)

2時間目は図書室で実施した。まずは前時の振り返りとして語種の特徴を一問一答形式で確認した。

次に、前時で課題の残った「日本食レストラン」の語の区切りについて、語からイメージするものが何かという見分けを、イラストを使って補足説明した。「カレー」と聞いたイメージを学習者に持たせ図1を示し、次に「うどん」と聞いたイメージを学習者に持たせ図2を示した。その後「カレーうどん」と聞いたイメージを学習者に持たせ図3を示した。「カレー」と「うどん」がそれぞれ別のものを指し、「カレーうどん」もまた別のものを指すことを意識させ、これら3語はそれぞれ違う語であることを確認した。続けて前時に問題となった「日本食レストラン」についても同様の確認をした。まず「日本食」と聞いたイメージを学習者に持たせ図4を示し、次に「レストラン」と聞いたイメージを学習者に持たせ図5を示した。その後「日本食レストラン」と聞いたイメージを学習者に持たせ図6を示した。これにより「日本食レストラン」は1語と考えることをどのクラスでも共有した。

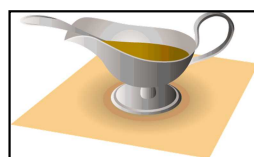


図1 カレー



図2 うどん



図 3 カレーうどん

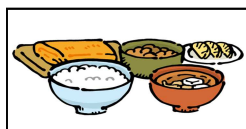


図 4 日本食

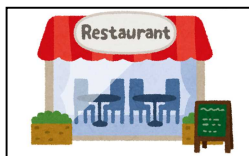


図 5 レストラン

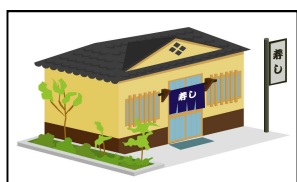


図 6 日本食レストラン

ここから本時の学習内容に入った。学習者は「気になる言葉」をそれぞれ 2 語ずつ見つけてきている。そこで、次の順番で活動を行った。

まず、「気になる言葉」の和語・漢語・外来語・混種語を漢和辞典と国語辞典を使って調べた。次に、2 語のうちどちらか 1 語を選び、気になった理由と「気になる言葉」の印象をワークシート B (資料 4) に記入させた。その後、図書館の本や辞書類を使って、「気になる言葉」の意味や由来を調べ、あわせて「気になる言葉」に関連する情報を調べた。

「気になる言葉」を 2 語用意させ 1 つにしようとしたのは、最近に使用されるようになった新しい語（「忖」）など調べられない語を避けるためである。語種を調べている段階で授業者が巡視し、本で調べられる面白そうな語を選ぶよう声をかけた。

本時は図書室で実施し、図書館内の本の他に用意したのは人数分の漢和辞典と国語辞典である。これらを自由に使い、友達と相談や授業者へ質問をしながら調べを進めた。学習者は普段とは違う図書室での授業ということもあり、そわそわと浮足立ち、好奇心をもって本を探して回っていた。欲しい情報が載っている本がどこにあるのか見当がつかない学習者には詳し

く話を聞き、効率的に本を選ぶよう誘導した。授業者が用意した国語辞典とは異なる国語辞典やカタカナ語辞典などが図書館にはあり、そちらで意味や由来を探すことも有用であることなども全体へ声をかけた。

多くの学習者がすべての項目を埋めた状態で本時を終えた。次回への予告として、1 人 2 分間で発表できるよう、本時で調べたことを整理しておくよう指示を出した。

(4) 発表と共有 (3 時間目)

3 時間目は、前時で調べた内容を発表・共有した。

まず 4 人グループになり、1 人 2 分で調べた内容を発表した。発表前に B4 の紙と太字マーカーを配布し、1 人 1 枚に「気になる言葉」を大きく記入させた。これを発表の際にグループ内で 3 人に示しながら説明するよう指示した。発表を聞く際は、ワークシート C (資料 5) に記録を取りながら聞くこととした。

1 人 2 分での発表は簡潔にまとめるよう、タイマーを使って時間を意識させながら行った。時間内に発表が終わるようテキパキと発表し合う姿が見られた。発表が終わったら、グループで 1 人の代表者を決めさせた。代表者については、「気になる言葉」を調べた結果がグループ内で特におもしろかった人などを選ぶよう、指示した。

次に、グループごとに全員が前に出て、それぞれの「気になる言葉」を全体に示しながら全体発表を行った。代表者が全員の「気になる言葉」を紹介し、代表者の「気になる言葉」を調べた内容を発表した。全グループが発表をし、「気になる言葉」にはどのような語があったか、語を調べるとどのようなことがわかるかを学級内で共有した。

この学級内での発表の際に、あるクラスで話題になったのが「金平糖」である。代表者として発表した学習者は、「金平糖」は漢語としていた。だが発表すると「金平糖」は外来語ではないかとする別の学習者がいた。「金平糖」はポルトガル語「confeito」の音にあわせて漢字をあてたもので、これは外来語である。漢語と

した学習者はすべて音読みであり、漢語であるとしたが、日本の文化交流の歴史を考えると、外来語とわかる語だ。「金平糖」については、この実践のあとの時間で、語の歴史と語種のつながりをもう一度振り返りながら確認するよう、実物の金平糖を担当の先生に渡し、補足していただいた。

ワークシート C (資料 5) に本時の振り返りを記入して、実践を終了した。

4. 本実践の成果と課題

(1) 成果

本実践の目的であった「和語・漢語・外来語」の学習と日本の文化交流の歴史を結びつける単元づくりのため、「気になる言葉」を調べさせた。

自らの生活から取り出した「気になる言葉」を調べることで、学習者の興味を引き出すことができた。

「和語・漢語・外来語」については小学校でも学習しており、1 時間目の学習者とのやり取りの中で、なんとなく知っている学習者もいた。しかし本実践の活動で、実際に辞書を引いたり、本や資料を使って調べたりすることで、初めて自分の力で語種を判別することができるようになった。

この過程を経ることで、学習者は語種を漢字の読みだけでは判定できないことが実感として学べたと思う。

(2) 課題

「気になる言葉」を調べる際、語から離れて興味のままに調べる学習者がいた。語の意味や由来ではない情報を調べたり、語から関連の薄い情報を調べたりしてしまっている学習者には、授業者が気づき次第、声をかけて方向を修正した。どこまで調べるか、ということを示しにくく、活動の前に具体的に指示を出せなかった。語から離れすぎると、単元の目標から外れてしまう恐れがあり、注意が必要だ。

本実践ではそれぞれの語種の、会話や文章における役割については深く言及しなかった。この点については話し言葉・書き言葉といった視点もあわせながら学習活動に取り入れる必要があるだろう。

5. 今後の展望

本実践を行う中で、実践前よりも強く「和語・漢語・外来語」を学習する際に日本の文化交流の歴史をあわせて学ぶ意義を実感した。学習活動を少し工夫することで、学習者が自ら音読み・訓読みでは判定できないことに気がつくことも本実践で明らかになった。

授業者のあらゆる工夫によって、学習者が学びを深めることに結びつくような単元づくりを今後も目指す所存である。

注：学習指導案（資料 2）およびワークシート A（資料 3）の網掛け部分については、時間の都合で当日に内容を変更し、一問一答形式での確認に代えた。

（横浜国立大学大学院教育学研究科）

横浜国立大学大学院教育学研究科

教育デザインコース国語領域

修士課程1年 今野優香

1、単元名 言葉1「和語・漢語・外来語」(『国語3』、甲斐睦朗ほか、光村図書出版)

2、単元の目標

- ①日常生活の中の会話や文章などに使用される言葉に関心をもち、豊かな言語感覚を磨こうとする態度を養う。【国語への関心・意欲・態度】
- ②日常生活における会話や文章などについて、和語・漢語・外来語がどのように使用されているのかを理解する。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3、単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
日常生活で使用する言葉に感心をもち、和語・漢語・外来語の特徴を自らの言語生活に生かしていこうとしている。	日常生活における和語・漢語・外来語の使用例に基づいて、使われ方の特徴やその効果、語感などについて考えている。

4、教材観

「和語・漢語・外来語」は小学校でも学習しており、中学校ではその発展として学ばれる。しかし中学生にとって、小学校で学習した「和語・漢語・外来語」は時間数が限られていることもあり、印象が薄いといえるのではないだろうか。「幸せ」、「幸福」、「ハッピー」といった横断的な語が例示されることが多いが、単語の言い換えだけでは汲み取ることができない、語種の文章での役割や効果などは、中学校で学ぶことでその後の読書への興味や文章の読解、作文の際に大いに役立つだろう。そこで本単元では和語・漢語・外来語を特徴、由来、効果という3つの側面から、活動を通して学習者が語種の使い分けをする必要性や語種による違いに興味を持てるようにしたい。

5、指導と評価の計画(全3時間)

時	○主な学習活動	◎評価規準及び評価方法
1	<p>○「和語・漢語・外来語」や日常の言葉に対する関心を問うアンケートに答える。</p> <p>○漢字は中国からやってきたこと、音読みと訓読みがあることを確認し、和語と漢語の区別を理解する。</p> <p>○教科書P.63の下段からP.64を読む。</p> <p>○教科書P.124の下段「国際的に」～「ものも</p>	

	<p>ある。」を使って、和語・漢語・外来語を念頭に、何種類の語が使われているか考える。(ワークシートA、グループワーク)</p> <p>○何種類の語が使われていたか、気になった語の語種もあわせて確認する。</p> <p>○和語・漢語・外来語の由来や歴史を推察する。(ワークシートA、グループワーク)</p> <p>○和語・漢語・外来語の語感や由来をまとめる。(ワークシートA)</p>	
2 図 書 室 で 実 施	<p>○和語・漢語・外来語の特徴を確認する。(ワークシートA)</p> <p>○用意してきた「気になる言葉」について、なぜ気になったのか、言葉から受ける印象などを考え、記入する。(ワークシートB、個人ワーク)</p> <p>○「気になる言葉」について、</p> <p>①和語・漢語・外来語・混種語のどれか(漢和辞典を用いる)</p> <p>②意味や由来(国語辞典・語源辞典を用いる)</p> <p>③関連する情報(図書を用いる)</p> <p>を調べる。(ワークシートB、個人ワーク)</p> <p>○次回の授業で、1人2分で発表できるようにまとめる。(ワークシートB、個人ワーク)</p>	
3	<p>○和語・漢語・外来語の特徴を確認する。(ワークシートA)</p> <p>○前時で「気になる言葉」を調査した結果をグループ内で、1人2分で発表する。(ワークシートB・C、グループワーク)</p> <p>○各グループの代表者1人が全体へ発表し、共有する。</p> <p>○今後、どのような場面で和語・漢語・外来語を考えながら言葉を選んだ文章または発言がしたいかを考え、記述する。(ワークシートC、個人ワーク)</p> <p>○「和語・漢語・外来語」に関するアンケートに答える。</p>	<p>◎和語・漢語・外来語の特徴を自らの言語生活に生かしていこうとしている。【国語への関心・意欲・態度】(ワークシート)</p>

6、本時の目標（本時：1／3時間）

和語・漢語・外来語の特徴や語の成り立ちを考え、理解する。

7、本時の展開

	○学習活動 ・ 想定される学習者の反応	※指導上の留意点
導入 5分	○本時の目標と学習内容を確認する。	※本時の目標を全体で音読させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>[本時の目標]</p> <p>和語・漢語・外来語の特徴や語の成り立ちを考え、理解する。</p> </div>	
展開 35分	○「和語・漢語・外来語」や日常の言葉に対する関心を問うアンケートに答える。	
	<p>○漢字は中国からやってきたこと、音読みと訓読みがあることを確認し、和語と漢語の区別を理解する。</p> <p>○教科書 P. 63 の下段から P. 64 を読む。</p> <p>○教科書 P. 124 の下段「国際的に」～「ものもある。」を使って、和語・漢語・外来語を念頭に、何種類の語が使われているか考える。（ワークシートA、グループワーク）</p> <p>・ゴボウなど野菜の名前はカタカナで書かれているけど外来語ではないよね。</p> <p>○何種類の語が使われていたか、気になった語の語種もあわせて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○和語・漢語・外来語の由来や歴史を推察する。（ワークシートA、グループワーク）</p> <p>○和語・漢語・外来語の語感や由来を全体で共有し、まとめる。（ワークシートA）</p> </div>	<p>※説明部分は小さな発問を多くし、学習者が一方的に聞くのではなく、考えながら参加するように配慮する。</p> <p>※全体で比較的ゆっくり、意味を捉えながら音読させる。</p> <p>※表記だけにとらわれず、辞書を引ながら語種を考えるよう声かけをする。</p> <p>※他のグループの意見で良いと思うものはメモをするよう示す。</p> <p>※漢字の音読みと訓読みを踏まえ、グループなりに簡潔にまとめることで、考えを整理し、語種と由来を結びつけさせる。</p> <p>※グループでの推察を確かめつつ、全体で共有することで語種ごとの語感や由来について共通の認識を持てるようにする。</p> <p>◎和語・漢語・外来語の由来や歴史を探ろうとしている。【国語への関心・意欲・態度】（観察、ワークシート）</p>

ま と め 10 分	○本時を振り返り、感想を書く。(ワークシート A、個人ワーク)	※振り返りを書くことで本時のまとめとする。
------------------------	------------------------------------	-----------------------

一、教科書一二六ページ下段一行目「国際的に」から十一行目「ものもある。」には、何種類の語が使われているか、辞書を使いながら話し合いました。気になった語や意見が分かれた語は下のカッコにメモしておきましょう。

▽何種類の語が使われているか

▽気になった語、意見が分かれた語

種類

二、和語、漢語、外来語の特徴について、左の表にはどんな言葉が入るか話し合いました。

外来語	漢語	和語	由来や歴史	
			グループの考え	
外来語	漢語	和語	語の印象	
			グループの考え	
外来語	漢語	和語	適した場面	
			グループの考え	

三、授業を振り返り、考えたことや気付いたこと、感想を記入しましょう。

◎ 「気になる言葉」を調べよう

▼ 「気になる言葉」

(調べる方に☒)

☐

← 当てはまるものを○で囲む

〔和語・漢語・外来語・混種語〕

と

☐

← 当てはまるものを○で囲む

〔和語・漢語・外来語・混種語〕

▼ 気になった理由

▼ 「気になる言葉」の印象

▼ 「気になる言葉」の意味や由来

Point 国語辞典・語源辞典を見てみよう

▼ 「気になる言葉」に関連する情報

Point 様々な種類の本を見てみよう

◎ 【予告】次回は、一人二分間で発表。発表する部分は傍線を引く等、二分間で発表できるようにまとめておくこと。

組 番 氏名 ()

◎発表聞き取りシート

	言葉	意味・由来	関連する情報
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

各班の発表でから分かったこと・気付いたこと